

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第206版

理念と実践で
絆を結びます

竹取新聞は、「子ども第一義」の理念のもと、皆様の保育に少しでもお役に立てたらとの思いでお届けしている新聞です。お客様との素敵な保育実践はもちろん、マネジメントや働き方、子育てや暮らしのあり方、社内の取り組みやウェブ・IT支援まで、カグヤの実践を発信しています。明日から真似できることや、挑戦する勇気につながることを大切に発刊しています。

竹取新聞に関する皆様のご意見や
ご要望をお聞かせください！

ご意見箱



竹取新聞以外のご意見も
お待ちしております。
お電話やメールでもOK！

03-3518-6217
info@caguya.co.jp



梅雨の季節に親子で楽しんだ「フィールドビンゴ」。身近な場所で、息子とたくさんの感覚を探して回りました！

フィールドビンゴで 広がる発見

たら、一緒にやってみたいな」と思ったことを覚えていきます。

本来のフィールドビンゴは、カードに描かれた触覚の特徴に合うものを自然の中から探し、通常のビンゴと同じように、縦・横・斜めをそろえて楽しむゲームです。今回は、カグヤオリジナルルールにアレンジして行いました。

ルールは、全員でビンゴをそろえることを目指し、制限時間は10分に設定しました。オンラインで実施したため、それぞれの家の中からテーマに合うものを探す形で行います。参加者は、一人一つ以上テーマに沿ったものを見つけないと、周囲が持つてきてもらうルールにしました。

さらに、残り2分になったところで「スペシャルテーマ」を発表し、ゲームが盛り上がるよう工夫してみました。

（今回のスペシャルは「パリパリ」としました）

実際に行ってみると、「ビンゴと言ってもいろいろ楽しみ方がある」「協力して探せて楽しかった」といった感想がありました。また、「食

品や日用品など、ジャンルを絞ると難易度が上がって面白そう」「難易度が高い方が、工夫して話し合うことにつながる」という声もありました。中には、「捨てられずに置いてあった硬い石が役に立ってよかった」という声もあり、身近なものの触覚に改めて気づく時間にもなりました。

元々のルールで行ってももちろん楽しいフィールドビンゴですが、少しルールを変え、楽しむことができました。これからの季節は、秋らしい自然や身近なものを見つける遊びとしても楽しめそうです。

園庭や保育室の中など、いつもの場所でも視点を少し変えるだけで、子どもたちと一緒に新しい発見を楽しめるのではないのでしょうか。子どもも大人も対話が生まれ、身近なものの見方が変わる楽しいゲームです。

記事内でご紹介したフィールドビンゴカードは、ネイチャーゲームショップにて購入できます。カグヤで行ったルールの詳細は、ホームページでご紹介しています。

（奥山卓矢）

「子ども性暴力防止法」の 施行に向けて

子どもたちの毎日の笑顔と、安心して過ごせる豊かな環境を守ることは、日々現場で子どもたちと向き合う皆様にとって、何よりも大切なテーマかと思えます。

その安全をさらに確かなものにするため、通称「日本版DBS」と呼ばれる「子ども性暴力防止法」が2026年12月25日からスタートします。

この法律は、学校や保育所、学習塾などで働く人の性犯罪歴を確認する仕組みを作ることと、子どもたちを性暴力から未然に守り、悲しい出来事を決して許さない環境を目指すものです。

すべての認可保育所や幼稚園、認定こども園は、公立・私立を問わず法律の対象となります。具体的には、園長先生や保育士さんなど、子どもたちと日常的に接する職員に性犯罪の前科がないかを確認することが義務づけられます。

また、事務員さんやバスの運転手さんについても、お仕事の実態に合わせて確認が必要

か判断していくこととなります。さらに、犯罪歴の確認だけでなく、日頃から子どもたちの様子を優しく見守り、困ったときに相談できる窓口を作ったり、職員向けの研修を行ったりして、みんなで守る体制を整えていく必要があります。

万が一の時には、何よりもまず子どもを保護し、誠実に対策を考える仕組みも大切になります。なお、この制度に取り込む施設や事業所は、その証として「こまもろう」というシンボルマークを表示できるようになります。このマークを園のホームページに掲載して、安全への取り組みを伝えたいとお考えの際は、ぜひ弊社までお気軽にお問い合わせください。

（松田 恵美子）



引用：こども家庭庁

弊社では、月に一度の会議の冒頭に、みんなの協力や協働を引き出すことを目的として「アクティビティ」を行っています。アクティビティでは、競争ではなく、協働的（コーポラティブ）な要素を取り入れたゲームを行っています。

今回は、その中で行ったフィールドビンゴゲームをご紹介します。こちらのゲームを知るきっかけは、約5年前の「ミマモリング」を活用したオンラ

イン研修での、ある園の実践発表でした。保育所保育指針の「環境」領域に、「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く」という項目があります。こちらの項目に対して、子どもたち

に園庭など身近な場所から自然への興味・関心を持ってほしいという思いから、フィールドビンゴを取り入れられていました。その発表に感銘を受け、「いつか子どもが生まれ

今月の カグヤ社内「一円対話」テーマ

- **席替えテーマ：「アルバイトの職種が多い順」（同じ場合には歴が長い順）**
（新しい個性や一面が知れるようなテーマ設定がポイント！）
- **自由テーマ：「今年は〇〇の秋気分？」（食べたいもの、やりたいことなど）**
（オープンで本心本音が出しやすいようなテーマ設定がポイント！）



一円対話は、園が主体となって「聴く文化」や風通しのよい組織風土を育てていく実践です。カグヤは、その取り組みが園に根づくよう伴走しています。ここでは毎月、カグヤで実践された一円対話のテーマをご紹介します。導入いただいている園の聴福人さんがテーマを設定する際の参考にできれば幸いです。



一円対話の情報は
こちらから

一円対話にご興味のある方はお問い合わせください！



お料理に使う里芋は、お供えしてからいただきます。



「芋名月だからお芋メインで！」とメニューを考えたり、中秋の名月に合わせて、野菜の切り方もなるべく輪切りで丸くしてみたり・・・お月様に思いを馳せて準備をする時間もまた豊かなものです。



昨年はゴマ団子をつくりました！

9月になると空気が澄み、夜空に浮かぶ月がひととき美しく感じられる季節になります。一年の中でも最も美しい月といわれる「中秋の名月」も、もうすぐですね。（今年は9月25日）

昔の日本では、月の満ち欠けを暮らしや農作業の目安としていたため、月は実りをもたらす大切な存在でした。お月見は月を愛でるだけでなく、収穫への感謝を捧げる大切な行事でもあったのです。

私たちが「中秋の名月」と呼ぶ十五夜は、旧暦の8月15日にあたり、新暦では9月中旬から下旬頃。当時の主食は、今のようにお米だけではなく、雑穀や芋類が中心でこの時期は里芋の収穫期だったことから、十五夜は「芋名月」とも呼ばれています。

十五夜には、月見団子はもちろんのこと、丸いおむすびや肉団子、卵を満月に見立てた月見そばや月見うどん、旬の里芋やさつまいもなど、この季節ならではの味覚を楽しみながら、秋の実りに感謝するひとときを過ごしてみたいかがでしょうか。

（宮前奈々子）



実りの秋とお月見

一期一会庵

じねんの暮らし

自然と書いて「じねん」と呼ぶ言葉があります。現在、自然は「しぜん」と呼ばれ、欧米の「nature」の意味が強く使われますが、東洋では本来、自然は「じねん」と呼び「おのづからしかり」という意味で用いられてきました。

これは老子の「道法自然」が由来します。これは道は自然を法とするとし、道とはおのづからそうなる働きに則るものだという意味です。全文は、「人は地に法り、地は天に法り、天は道に法り、道は自然に法る」です。また日本では、浄土真宗の開祖、親鸞が「自然法爾（じねんほうに）」という言葉を用いました。この「法爾」の「爾」も「そのようである、あるがまま」という意味です。

おのづからしかりとして、人のはかりを離れたところではたらいっているものにすべて丸ごと信じて任せるという生き方です。

まず前提として、何が自然で何が不自然かという問いがあります。自然が分かるとは何か、不自然とは何かが観えるかというものです。

現代は、あらゆる自然災害が発生

します。そこに対して、環境改善や自然保護などという人間の意識もありますが、それは少し離れてみると傲慢ではないかと感じるものもあります。謙虚に静かに自然災害をみつめていたら何が自然なのか、何が不自然なのか洞察できるものです。自ずから然りとは、神はからいとも言えます。何をしようとしているのか、どうしたいのか、自然の法理や宇宙の働きにすべてお任せしていると人間がどうあるべきか、何をすることが自然体であるかに気づきます。

親祖をはじめ先人たちは、人間が自然と共に道を歩むことを智慧として伝承してきました。それを「暮らし」と呼びます。例えば、場が調うようにし、いのちが循環できるように調え、多様な生き物たちが生を全うして持ち味を活かせるように見守り、季節の巡りにあわせていのり、日々供養をして感謝し、謙虚に心身をお手入れし調えていきました。

地球も人体も滞ると不自然になり問題が表出します。自然なら災害、人体なら病気です。自然であることは全体の循環が滞らないように配慮する暮らしを営んでいくことかもしれません。じねんの暮らしを心掛けつつ、保育の場がより穏やかに循環していくように生き方と社業をこれから調えていきたいと思います。

（野見山広明）

編集後記



自家製パイナップル酢のソーダ割り

夏の疲れが出やすい季節を迎えましたが、この時期の疲労回復には、体内のエネルギー代謝を促してくれる「お酢」の力が役立ちます。私のおすすめは、「パイナップル」で作る自家製の果実酢です。カットした果実、穀物酢、氷砂糖を瓶に入れ、1日1回振りながら常温

で1週間待つだけで完成。炭酸や水で割って飲むと、フルーティーな酸味が元気をチャージしてくれます。こうした手作りのひと工夫を味方につけて、残暑を賢く乗り切りたいものです。季節の変わり目、どうぞご自愛ください。

（松田恵美子）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

